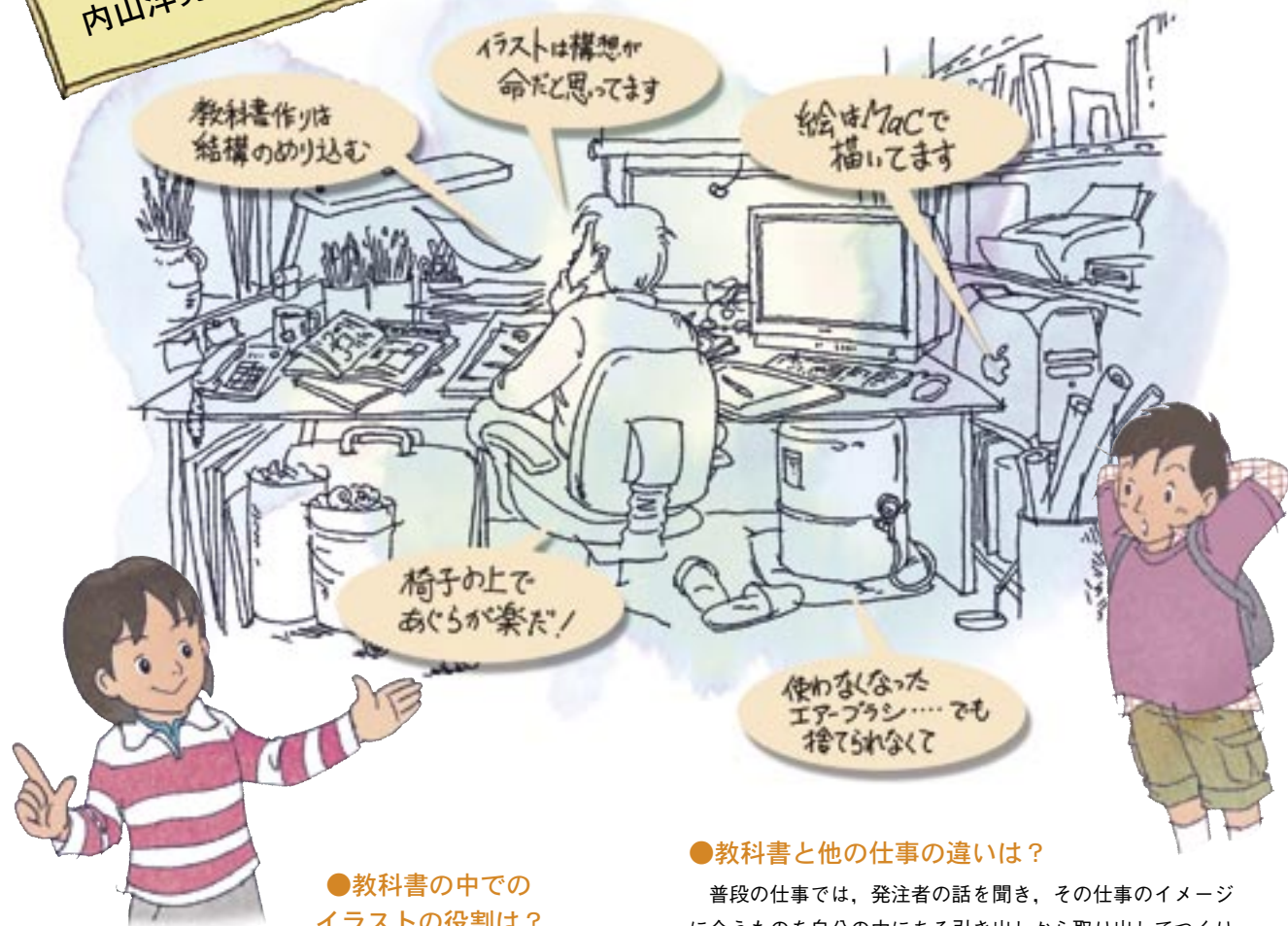




ニュークラウンの本文部分のイラストを担当している内山洋見さんに、どのようなことを考えながら教科書の仕事をされているのかをお尋ねしました。

### ●教科書の絵は挿絵？ イラスト？

「挿絵」という言い方には古めかしさがあるのでしょうか？ 私は嫌いではないのですが…。一方、「イラスト」には自己主張や個性というような響きも感じられます。教科書の絵は、個性という点ではその2つの間にあるような気がします。



教科書作りは  
結構のめり込む

イラストは構想が  
命だと思ってます

絵はMacで  
描いています

椅子の上で  
あぐらが楽だ！

使わなくなった  
エアブラシ……でも  
捨てられなくて

### ●教科書の中での イラストの役割は？

私は子どもの頃、挿絵のある本が好きでした。まず絵を先に見てしまってから、文章を読んでいくことが多かったように思います。主人公の絵がカッコイイと嬉しくて興奮。しかし、お粗末な絵のときは読む気力もなえてしまいました。ビジュアルは大事！

ニュークラウンのキャラクターたちは、3年間生徒たちと一緒に成長し、多くのことを学んで大人への階段をのぼっていきます。生徒たちのクラスメイトのような感覚で、3年間をともに過ごすのです。また、中学校教科書の少ない分量の英語では表現しきれないことを、イラストで語ることも求められます。教科書は、まさに本文とビジュアルの一体化を重視したつくりになっているのです。そういう意味で、本文のイラストは、今風とか洒落たイラストではその役割を果たすことはできません。今回のイラストも様々な試行錯誤の末に生まれました。

### ●教科書と他の仕事の違いは？

普段の仕事では、発注者の話を聞き、その仕事のイメージに合うものを自分の中にある引き出しから取り出してつくりあげます。要するに、自分のオリジナルを売りものにするわけです。教科書の場合は違います。編集委員、編集者とのやりとりのなか、長い過程を経てようやくできあがります。できあがったキャラクターは、イラストレーターのオリジナル作品というより、ニュークラウンのオリジナルキャラクターとなるわけです。自己主張を売りにしている作家としては、つらい面もあるのは事実です。しかし、そのキャラクターに感情移入しながら様々な場面を展開していくのは、結構楽しい作業です。自分の世界だけでパフォーマンスするならアマチュアでもできますが、多くの人たちの要求に応えるのがプロ。ましてや、この本で学習する生徒たちの目線で構想を練り、また、教材としてのイラストの存在意義を考えると、この仕事の奥は深い！ どっぴりのめり込んで、初めておもしろさが見えてくるのではないのでしょうか。